

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	2271101145
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム くすのき
所在地 (電話番号)	静岡県沼津市千本常盤町5-1 (055-954-1812)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月20日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック・石田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沼津千本地区の海岸に近い閑静な住宅街に位置した明るい外観のホームである。沼津駅に近い市街地ではあるが、袋小路のため車の往来も少なく、散歩に適した小道が多く見受けられた。管理者は前回評価の結果から様々な取り組みを実施しており随所に改善点が見られた。特に運営推進会議の定期開催が実施され、会議の参加者を中心とした地域交流が進んだことがサービスの質の向上に反映していると言える。管理者、職員、利用者共に明るい笑顔が印象的なホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での「取り組みを期待したい項目」はほとんどが改善されている。「栄養摂取や水分確保の支援」において、やや不十分な面はあるが、前向きに取り組んだ結果としてサービスの質の向上が図られている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はフロアリーダーが中心となり全員で取り組んだ。自己評価を通じ新たな気付きを得ることで、職員が自発的にサービスの質の向上に取り組む良い機会となった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回評価後、2ヶ月に1回の運営推進会議開催を計画し実行されている。会議ではホームからの報告、地域住民からの質問や要望、地区の老人会や行政からは祭事、行事のお知らせ等があり、活発な意見交換が実施されている。また運営推進会議に参加した人々の交流が会議外でも継続しており、地域住民や行政と共に歩むホーム運営の構築が進んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見は職員が現場で直接聞き取る努力をしている。職員は家族の話を良く聞き、意見は朝晩のカンファレンスや申し送りノートによって迅速に全員に周知され、業務に生かすシステムが出来ている。また、苦情や相談の窓口は重要事項説明書に明記され、ホーム内にも掲示されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や地区の祭事、行事、防災訓練等にも積極的に参加し、地域の小中学校とも交流を重ねている。また老人会やボランティアの訪問も盛んに実施され、地域住民との交流が深まっており、朝晩や散歩時には周囲の人々との挨拶が楽しみとなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの役割を良く理解し、開設時に管理者と職員が共同で作上げたホーム独自の理念を持っているが、新しい理念である「地域との交流」が盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した「地域住民との交流の下」をホームの理念にも盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念はフロアにも掲示され、職員の日々の励みとなっている。また管理者は日常の申し送りやカンファレンスを通して共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地区の祭事、行事、防災訓練等にも積極的に参加し、地域の小中学校とも交流を重ねている。また老人会やボランティアの訪問も盛んに実施され、地域住民との交流が深まっており、朝晩や散歩時には周囲の人々との挨拶が楽しみとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はフロアリーダーが中心となり全員で取り組んだ。自己評価を通じ新たな気付きを得ることで、職員が自発的にサービスの質の向上に取り組む良い機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回評価後、2ヶ月に1回の開催を計画し実行されている。内部業務の事情で未開催の回もあったが、運営推進会議の開催により地域や行政からの認知度も向上しているため、定期開催を目標に調整している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護者の受け入れを通じて市とのパイプが深まっている。また運営推進会議に参加した人々の交流が会議外でも継続しており、地域包括支援センターとの強い絆もあり、行政と共に歩む姿勢を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者、職員は利用者一人ひとりの近況を手書きの親書として写真と共に家族に送付しているが、「ホームだより」としての定期的な報告とはなっていない。	○	定期刊行物としての「ホームだより」はホームの歴史や実績としての重要な役割を持っている。利用者や家族の思い出、職員の業務の振り返りやサービス向上にもつながる「ホームだより」の定期発行が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は職員が現場で直接聞き取る努力をしている。職員は家族の話を良く聞き、意見は朝晩のカンファレンスや申し送りノートによって迅速に全員に周知され、業務に生かすシステムが出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は2名の離職があり利用者への影響が懸念されたが、管理者や職員は利用者を良く観察し、ダメージを最小限に抑える配慮を実施した。通常はユニットごとに独立したローテーションとなっており、馴染みの関係作りが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修や、ホームでの育成等のシステムが充実している。入職時には日勤5日、夜勤2回の指導者同行トレーニング期間がありホーム内で働きながら学ぶことが出来る。現任者の研修も法人として取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人や管理者レベルでの交流が進んでいたが、最近では「沼津市南部グループホーム連絡会」が発足した。同業者間のネットワーク作りや相互交流を通じ、サービスの質の向上に努める体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあった場合には、必ず家族や本人が見学を重ね、納得した上での利用を励行している。食堂でのお茶会体験、宿泊体験も可能となっており、馴染みながらの利用についてのシステムが出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶ事を楽しみにしている。若い職員は戦争体験や年寄りの知恵に耳を傾け、「おふくろの味」も楽しんでいる。利用者が職員の健康を気遣う場面もあり、家族のように共に過ごす関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の様子の観察やアセスメント票を活用することで、これまでの習慣や好み、思いや希望を把握している。職員間でも情報を共有し、一人ひとりの気持ちを満たすように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人の望むことや家族の要望を取り入れ、個別に具体的に作成している。業務日誌等の記録を基に、日々の職員の話、本人、家族からの話と併せ、長期・短期の目標を明確に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態を見ながら家族の要望や職員間の話し合いで3ヶ月ごとの見直しをしている。また本人の状態に変化があった場合にはその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望にできる限り応えられるように、通院や外出の介助・馴染みの理・美容院への同行支援等、柔軟に対応している。また家族の宿泊や食事の提供、近隣住民の介護相談等にも対応できる体制を持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し入所前の主治医を継続できるように支援しており、家族や利用者の状態に応じて職員が受診介助を実施している。提携医の訪問診療は週5日あり、看護師による訪問看護も週1日行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における医療体制指針」があり、ターミナル・ケアについての方針を全員が共有している。本人や家族、医療機関と連携をとり、利用者の状態に応じて受け入れていく体制を持っており、職員の意識も高い。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との信頼関係を築く上で、言葉かけや働きかけなど、一人ひとりに合わせた丁寧な対応をしている。個人情報に関する記録は、鍵のかかる書庫や事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の生活状態を十分に把握し、利用者のペースでゆったりと生活している。その日の様子で散歩や買い物等、利用者の気持ちを尊重し配慮しながら、押付けにならない支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ、季節に合った食材で献立を作成している。野菜を切ったり、食器を拭いたり、職員も一緒に会話を楽しみながら準備や片付けをしている。時には気分を変えてお弁当をとったり、おやつにおはぎを手作りする等「食」の楽しみに配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間は特に決めず、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴回数はチェックリストにて管理され、入浴を好まない利用者には言葉かけ、誘導等対応を工夫することで週2回以上の入浴を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に張り合いが持てるよう、得意なことや趣味を把握し、洗濯物干しや取り込み・たたみ、畑の草取りなど、利用者の能力に応じた役割が持てるよう配慮している。またボランティアによる催し物などを導入し、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を心がけ、利用者の会話の中で話題になったその時々で外出を楽しめる機会を積極的に作っている。季節や行事に合わせて、個々の要望に応じて地域の催し物や町内会の行事等に出かける支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しないケアに取り組んでいる。職員は利用者の行動に良く目を配り、安全に配慮しながら行動を制限しないよう見守りや声かけを実施している。各ユニットのドアには出入りが解るように風鈴をつけ察知できるように工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て年2回定期的に行っている。隣家の大家さんの協力もいただき、運営推進会議で地域住民との災害時の連携の要請も行なわれている。備蓄についても約1週間分準備できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況や好みに合わせ、適切な栄養が摂取できるよう支援している。毎食の主食・副食の摂取量は記録され、一人ひとりの食事が把握されているが、水分摂取量については特別な場合以外は記録されていない。	○	高齢者に適した栄養管理のため、時折栄養士等の専門家の意見を求めることや、全員の水分摂取量についても記録されることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレ等には手すりが設置され、段差のないバリアフリー構造となっている。居間は南向きに配置され、明るく居心地良い空間となっている。また季節の飾り物や花が置かれ、壁には様々な写真が掲示されている。ソファでテレビを見たり、会話を楽しむ等、利用者のくつろぐ姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス・テレビ・鏡台等馴染みの家具が置かれ、カーテンも好みの色で取り付けられている。大切な品物や写真が飾られた部屋に畳を敷き、布団を使用する利用者もいる。本人の希望に沿って出来るだけ環境を変えず、安心して過ごせるよう配慮している。		